

絶滅危惧Ⅱ類

長野県：指定なし 環境省：指定なし

イワヒメワラビ 【岩姫蕨】
Hypolepis punctata (斑点のある)

コバノイシカグマ科 イワヒメワラビ属



所で5～6個体の集団で、自然遷移による絶滅のおそれがあります。

特記事項

和名は岩の上に生える小さいワラビという意味です。

種の特徴

夏緑性のシダ植物で、葉の高さ60～100cm、長楕円形で、3～4回羽状となり、全草に毛が多く、鱗片や包膜はありません。先端部は秋まで成長が続くので、大きな個体になります。

生育環境

林縁や林内の明るい草地に生育します。

国内や県内の分布

本州（関東以西の暖地）から沖縄に分布、県内では南部に多く、中部、北部は少ないです。

市内の状況と絶滅危惧要因

八王子山、不動滝、佐野川に生育します。林縁や明るい草地にあり、岩上にはあまり見ません。各

絶滅危惧Ⅱ類

長野県：指定なし 環境省：指定なし

コタニワタリ 【小谷渡】
Asplenium scolopendrium (コタニワタリ属に似た)

チャセンシダ科
チャセンシダ属



砂防事業や樹木の伐採による生育地の改変による絶滅が懸念されます。

特記事項

和名は谷川や沢などに生育し、また木の上に生育することもあるので、谷を越えつつあるように見えたことからとされています。

種の特徴

常緑のシダ植物で、葉の長さは30～50cm。葉には多くのシダに見られるような切れ込みがなく、やや厚く光沢があり、基部はやや耳状になります。葉の形が特徴的なので分かりやすいシダです。

生育環境

低山帯の湿潤な林床に生育します。

国内や県内の分布

北海道から九州に分布し、県内では全県下にわたり分布します。

市内の状況と絶滅危惧要因

大田原や新山地区などの沢筋や樹林下に分布します。株数は比較的少ないですが、分布地によっては50～100個体程度で群生しています。

絶滅危惧Ⅱ類

長野県：指定なし 環境省：指定なし

ゲジゲジシダ

【軸蜒羊歯】

Thelypteris decursive-pinnata (沿下する一羽状に)

ヒメシダ科 ヒメシダ属



特記事項

和名は葉の切れ込みの感じが虫のゲジゲジに似ているという意味です。

種の特徴

夏緑性^{かりよくせい}のシダで、葉の長さは20~50cm。中軸^{ちゅうじく}によく翼^{よく}があり、小葉が右左互いに出るのが特徴です。

生育環境

低山帯下部^{りんえん}の林縁や石垣などに生育します。

国内や県内の分布

北海道から沖縄に分布し、県内では全県下ですが、南部に多く北部・東部・中部には少ないです。

市内の状況と絶滅危惧要因

新山・生萱地区^{さわすし}の沢筋^{じゅりんか}や樹林下に生育していますが、生育地は少なく、10~15個体程度です。砂防事業^{さぼう}や樹木の伐採^{ぼっさい}による生育地^{かいはん}の改変^{けねん}が懸念されます。

絶滅危惧Ⅱ類

長野県：絶滅危惧ⅠB類 環境省：絶滅危惧Ⅱ類

デンジソウ

【田字草】

Marsilea quadrifolia (小葉四個をもった)

デンジソウ科 デンジソウ属



数枚の水田の中から、畦まで広がっています。各地とも水田の2~3枚に群生しています。農業に非常に弱いため、農業使用、水田埋め立て、耕作放棄による絶滅が懸念されます。

特記事項

千曲市では、八幡地区の娵捨棚田の希少種保全園で保全しています。和名は葉4枚が「田」の字に並んだように見えることからつきました。タノジモ、カタバミモの名もあります。

種の特徴

夏緑性^{かりよくせい}で、暖地^{だんち}の水生シダ植物^{こんけい}です。根茎は針金状で、やわらかく、水田の泥中、湖床を横に這い、淡褐色^{たんかっしよく}の毛が生えています。葉は根茎から春に出て、4枚の小葉^{しょうよう}を十字状につけます。水面に浮かぶ葉、水上に出る葉があります。根から葉までは10~20cm位です。

生育環境

水田の縁や畔、湖沼に生育します。

国内や県内の分布

北海道から沖縄に分布し、県内は北部、中部、東部に分布します。

市内の状況と絶滅危惧要因

屋代、新田、八幡、須坂、寂蒔、上徳間の各地区

絶滅危惧Ⅱ類

長野県：指定なし 環境省：指定なし

ブナ

【樺】
Fagus crenata (えんきよし (円鋸齒))

ブナ科 ブナ属



種の特徴

らくよう 落葉高木で、春一番に毛の密な葉を芽吹きます。花は5月頃咲きますが、毎年は咲きません。ブナは、何の役にも立たない木(木で無し)とされていましたが、現在緑のダムとして、また生物多様性の宝庫として、貴重な存在となっています。

国内や県内の分布

おしま 北海道(渡島半島)から九州(南限は高隈山)に分布します。県内は全県ですが、北部と南部に多く、中部と東部に少ないです。日本固有種です。

市内の状況と絶滅危惧要因

八幡地区の2箇所に分布します。大木の点在する群落と中木の密生する群落の2つがそれぞれおよそ1ha程度広がっています。森林整備や有用樹種の植林などにより群落の形成の存続が危ぶまれます。

特記事項

学名(属名)のFagusは“食べる”という意味です。かじつ さんりょうけい 果実は三稜形でソバの実によく似ていることから“ソバグリ”とも呼ばれています。

絶滅危惧Ⅱ類

長野県：準絶滅危惧 環境省：準絶滅危惧

ノダイオウ

【野大黄】
Rumex longifolius (長い葉の)

タデ科 ギシギシ属



種の特徴

たねんそう 高さが1mを超える大きな葉を持つ多年草です。人里に多いギシギシに似ていますが、ギシギシはそう果の中央が膨らみますが、ノダイオウは膨らまないのが特徴です。花期は6~8月です。

生育環境

しっち 山地帯の湿地や川岸などに生育します。

国内や県内の分布

北海道と本州(中部地方以北)に分布し、県内では全県下にわたり分布します。

市内の状況と絶滅危惧要因

千曲川や佐野川、大池、新山地区などに生育しますが、生育地も株数も少なく5~10個体程度です。さぼう 砂防事業や河川工事に伴う自生地の減少が懸念されます。

特記事項

だいいおう 野生の野大黄が和名の由来で、この属の一部の植物から漢方薬の大黄が調整されます。

絶滅危惧Ⅱ類

長野県：指定なし 環境省：指定なし

イチリンソウ

【一輪草】
Anemone nikoensis (日光産の)

キンポウゲ科 イチリンソウ属



種の特徴

多年草です。羽状に深く裂けた葉を3枚輪生につけます。花期は4～5月で花茎の先に白色から淡紅色を帯びた花径2.5～4cm程度の花を1つつけます。草丈は18～25cmです。

生育環境

林縁、林床、山裾の草地などに生育します。

国内や県内の分布

本州から九州に分布し、県内は北部、中部、南部に分布します。日本固有種です。

市内の状況と絶滅危惧要因

倉科、三滝下、姨捨駅周辺にそれぞれ20～30個体以内の群生が見られます。若干明るい林内を好みます。採取圧や森林の管理放棄により個体数の減少が懸念されます。

特記事項

初春、茎、花、葉などの地上部が早くに出現し、初夏には枯れて休眠します（スプリングエフェメラル）。5個の萼片は花弁状になります。

絶滅危惧Ⅱ類

長野県：指定なし 環境省：指定なし

レンゲショウマ

【蓮華升麻】
Anemonopsis macrophylla (大葉の)

キンポウゲ科 レンゲショウマ属



種の特徴

主に太平洋側の深山に生える多年草で、日本特産の1属1種です。草丈は40～80cmで、7～8月に、伸ばした茎の先にハスに似た淡い紫色の花を下向きに付けます。

生育環境

深山の落葉広葉樹林の林床に生育します。

国内や県内の分布

本州（福島県～奈良県）の主として太平洋側に分布し、県内では全県下ですが、北限が須坂市周辺です。日本固有種です。

市内の状況と絶滅危惧要因

大林山、八頭山、大田原地区の標高約900m以上の深山に生育していますが、生育地は少なく20個体程度しか見られません。採集や踏みつけによる減少が危惧されます。

特記事項

和名の升麻はサラシナショウマを意味し、花がハス（蓮華）に似ていることからレンゲショウマと呼ばれています。

絶滅危惧Ⅱ類

長野県：絶滅危惧Ⅱ類 環境省：準絶滅危惧

セツブンソウ

【節分草】
Eranthis pinnatifida (羽状中裂の)

キンポウゲ科 セツブンソウ属



種の特徴

多年草です。少数の根出葉があり、茎葉は対生します。萌芽と同時に開花しますが、花弁に見えるものは萼片です。これは直径2cmほどで白色、花弁は橙黄色でY字型の蜜腺になっています。6月頃種子が落ちると、地上部は枯れ、夏～秋は休眠します。草丈は5～15cm程度です。暖地では、名前のとおり節分（2月）頃咲きますが、千曲市では3月頃咲きます。県内分布地のほぼ北限といえます。

生育環境

半日陰の落葉広葉樹林の林縁や林下に群生します。

国内や県内の分布

本州（関東以西）に分布し、県内は北部と中部に分布しています。日本固有種です。

市内の状況と絶滅危惧要因

戸倉・倉科地区の2箇所、落葉広葉樹林下に群生しています。個体数は多いですが、生育地が限局されています。採取圧や管理放棄、自然遷移による絶滅が危惧されています。

特記事項

市天然記念物（H18）、市花（H21）制定されています。地元住民が保全活動を行い、積極的に保護しています。

絶滅危惧Ⅱ類

長野県：絶滅危惧Ⅱ類 環境省：絶滅危惧Ⅱ類

イワカラマツ

【岩唐松】
Thalictrum sekimotoanum (関本氏の)

キンポウゲ科 カラマツソウ属



種の特徴

多年生の草本植物で、高さ50～100cm。アキカラマツによく似ていますが、葉の裏に腺点が密生すること、小葉の先が3浅裂して尖るといった特徴があります。5～7月に花が早く咲くので、ナツカラマツの名もあります。

生育環境

山地の礫地や岩場に生育します。

国内や県内の分布

本州（秋田、栃木、長野の各県）に分布します。県内は全県の岩場に稀に産します。日本固有種です。

市内の状況と絶滅危惧要因

金山川林道や八王子山の林道に面した岩場と斜面

に生育、20～30個体ほど生育しています。自然災害や林道整備による絶滅の危険性があります。

特記事項

和名は、岩に生え、花の形がカラマツの葉に似ているために名付けられました。

絶滅危惧Ⅱ類

長野県：絶滅危惧Ⅱ類 環境省：指定なし

ウマノスズクサ

【馬の鈴草】
Aristolochia debilis (弱小な)

ウマノスズクサ科 ウマノスズクサ属



種の特徴

つる性の多年草で、全草無毛で、葉は卵状披針形です。花は7月頃葉のわきに1個ずつつきます。花弁はなく、ラッパ形の萼筒の先は斜めに切ったような形で、基部が丸くふくらみます。草丈は1～2m程度です。

生育環境

河川の土手や畑、林の縁などに生育します。

国内や県内の分布

本州（関東以西）から沖縄に分布します。県内は全県ですが、分布地は限られ、個体数も少ないです。

市内の状況と絶滅危惧要因

生萱・杭瀬下・桑原・稲荷山地区に生育地があります。川の土手や草原などにあり、常に刈り取られています。

個体数はおおよそ400株前後と推察されますが、過度の草刈り、踏みつけにより個体数の減少が懸念されます。

特記事項

ジャコウアゲハの食草です。東小学校では、近くの自生地からジャコウアゲハが飛来するため、ウマノスズクサを保護管理しています。和名は熟した果実の形が馬の首につける鈴に似ていることから名付けられています。

絶滅危惧Ⅱ類

長野県：指定なし 環境省：指定なし

ヤマキケマン

【山黄華鬘】
Corydalis ophiocarpa (蛇のような)

ケマンソウ科 キケマン属



上：全体
下：果実

種の特徴

山中に生える二年生の草本で、高さは50cm程度になり、茎はよく分枝します。6～7月頃、花軸を出し、淡黄色の小さな花を総状花序につけます。蒴果は線形で著しく屈曲します。

生育環境

山中の半日陰の岩上に分布します。

国内や県内の分布

本州（関東以西）、四国、九州に分布、県内は中部、東部に分布します。

市内の状況と絶滅危惧要因

冠着山（中腹）に生育、低木林内の高茎草本群落内（登山道周辺）に2～3個体生育しています。登山道整備、自然遷移による絶滅が懸念されます。

特記事項

和名は、山に生えて黄色の花の咲くケマンソウに似たものという意味です。



絶滅危惧Ⅱ類

長野県：指定なし 環境省：指定なし

ミヤマキケマン

【深山黄華鬘】
Corydalis pallida var. *tenuis* (淡白色の) (細い)

ケマンソウ科 キケマン属



種の特徴

二年草で、葉は再羽状。4～5月に10～30個の黄色の花が穂状に咲き、果実は弓形に曲がり数珠状にくびれてつきます。
草丈は30～50cm程度です。

生育環境

山野の日当たりのよい斜面草地に生育します。

国内や県内の分布

本州（近畿地方以北）に分布、県内は全県ですが、北部に多く見られます。日本固有種です。

市内の状況と絶滅危惧要因

力石・倉科地区の2カ所です。
砂礫地や岩場に生育しています。個体数は5～10個体内外で、土手の草刈り、道路改修、自然遷移などにより絶滅の危険性があります。

特記事項

和名は、ミヤマは深山おくやまで奥山のこと、キは黄色、ケマンとは仏殿そうじやくの装飾のけまん（華鬘）のことです。

絶滅危惧Ⅱ類

長野県：準絶滅危惧 環境省：準絶滅危惧

ツメレンゲ

【爪蓮華】
Orostachys japonicus (日本の)

ベンケイソウ科 イワレンゲ属



種の特徴

葉は多肉質で先は針状になる多年草で、高さ10～20cmの花穂を塔状に出し、3～4月に、白色の多数の花を円錐状えんすいじょうに咲かせます。

生育環境

日当たりの良い岩場や河原に生育します。

国内や県内の分布

本州（関東地方以西）、四国、九州に分布し、県内では全県下にわたり分布しますが比較的稀です。

市内の状況と絶滅危惧要因

長楽寺うばいわの姨岩の岩上に生育し、株数も少ないです。
自生地しぜんせいの自然遷移や採集による減少げんじゆんが懸念されます。

特記事項

和名は葉が細長くて尖り、けもの爪とがのようで、その葉の重なり方が蓮華れんげ（ハスの花）のようであることからこの名がつけられました。
クロツバメシジミ（環境省の準絶滅危惧種きんぐ、長野県の留意種）の幼虫の食草となっています。

スグリ

【酢塊】
Ribes sinanense (信濃産の)

スグリ科 スグリ属



上：全体 下：花

種の特徴

落葉低木で、枝にはすどい刺が3本束生します。5月、緑黄色の小さな花をつけ、秋には果実が赤くなります。果実は食べられますが酸っぱいです。樹高は1.5m程度です。

生育環境

明るい落葉樹林内に生育します。

国内や県内の分布

本州（長野・山梨両県）に分布します。県内は全県にわたりますが稀です。日本固有種です。

市内の状況と絶滅危惧要因

冠着山の2箇所のみです。株状で2～3個体が登山道脇や岩の割れ目に生育しています。産地の極限、自然遷移による絶滅が懸念されます。

特記事項

和名は酸っぱい実ということで、漢字の塊はくりくり坊主などというような丸いことを指すようです。

ハルユキノシタ

【春雪之下】
Saxifraga nipponica (日本の)

ユキノシタ科 ユキノシタ属



種の特徴

多年草で葉は円形に近く、縁には鋭い鋸歯があります。草丈は20～30cmで、4～5月に花茎の先に白色の花を咲かせます。5枚花弁のうち、上の3枚の基部には黄色の斑があり、下の2枚は長く垂れ下がります。

生育環境

山地の半日陰地などの湿った岩場に生育します。

国内や県内の分布

本州の関東から近畿地方に分布し、県内では全県下ですが北部から中部に多く分布します。日本固有種です。

市内の状況と絶滅危惧要因

冠着山中腹のごく限られた場所に生育し、3m×5m内に群落を形成しています。生育地の自然遷移による減少が懸念されます。

特記事項

和名はユキノシタに似ていますが春に花を咲かせることからつけられました。

トゲナシサイカチ

【刺無西海子】

Gleditsia japonica f. inermis (日本の) (とげのない)

マメ科 サイカチ属



特記事項

和名は古名の西海子（サイカイシ）が転化したものとされています。葉の様子からカワラフジノキの名もあります。

種の特徴

夏緑性の高木で、高さ20m、直径100cmにまでなります。サイカチは枝や幹に、枝の変形した刺が非常に多いことが特徴ですが、本種はその刺が全くないものです。

花は5～6月に淡緑色の小さな花が咲き、葉は食用、豆果は石けんの代用になります。

生育環境

原野や水辺に生育します。

国内や県内の分布

本州、四国、九州に分布します。県内は全県ですが個体数は少ないです。

市内の状況と絶滅危惧要因

八頭山山麓の岩礫の多い沢状地に、樹高10m程度の1個体あるのみです。自然遷移、森林整備などによる絶滅が懸念されます。

ヤブツルアズキ

【藪蔓小豆】

Vigna angularis var. nipponensis (角ばった) (日本本州産の)

マメ科 ササゲ属



生育しています。草地の減少や草刈り、用水路の整備などの要因により、個体数が減少すると考えられます。

特記事項

和名は藪の中に生育し、つるになります。種子はアズキによく似ているという意味です。

種の特徴

一年草で、茎はつる性、長さは3m以上にも達します。葉は三小葉で、先端で鋭くとがり、葉の先端は3つに分かれます。花期は8～10月頃、蝶形の黄色い花を咲かせます。花径は1.5～1.8cm、豆果は無毛です。

生育環境

川岸の草地を好みます。

国内や県内の分布

本州から九州、県内は全県に分布しています。

市内の状況と絶滅危惧要因

八幡地区の棚田、一重山の日当たりのよい草地や水田の土手に生育しています。つる状のため個体数は不明ですが、およそ2m×2mを被うほどに

コミネカエデ

【小峰楓】
Acer micranthum (小さい花の)

カエデ科 カエデ属



上：枝の一部 下：花

種の特徴

夏緑性かりよくせいの小高木で、高さはおよそ5～10m、葉は5つに分かれ、先端は尾状に尖り、重鋸歯じゆうきょしがあります。多少湿気しつげのある肥沃な土壌ひよくどじようを好みます。6～7月に花をつけますが、雌雄しゆうが異株いしゆだったり、同株どうしゆであったりします。

生育環境

山地の明るい林内や林縁に生育します。

国内や県内の分布

本州、四国、九州に分布し、県内は全県の低山帯に分布します。日本固有種です。

市内の状況と絶滅危惧要因

樺池ひょうこう（標高1200m）の池周辺の低木林内に2～3個体生育しています。池の改修や森林整備せつめいが絶滅の要因です。

特記事項

和名は、ミネカエデに似ていますが、花も実も小さいという意味で、生育地の標高もミネカエデの産地より低いです。

アカミノイヌツゲ

【赤実の犬柘植】
Ilex sugerokii var. *brevipedunculata*
(学者の名助六の転化)かへい(短い花柄のある)

モチノキ科 モチノキ属



上：枝の一部
下：果実

種の特徴

雌雄異株しゆうりよくの常緑低木で、葉は長さ2～3cmで革質で光沢があります。花期は7月で葉の脇から短い花柄かへいを伸ばし、白い小さな花を咲かせます。果実かじつが赤いです。

生育環境

低山帯～亜高山帯下部の痩せ尾根や岩場に生育します。

国内や県内の分布

北海道・本州（中部地方以北）に分布し、県内では全県下にわたり分布しますが東部に少ないです。日本固有種です。

市内の状況と絶滅危惧要因

大林山に分布しますが、株数は少ないです。自然遷移しぜんせんいや林内整備による減少が懸念されます。

特記事項

和名の由来は赤い実のつくイヌツゲという意味で、イヌツゲとは役にたたないツゲのことです。

絶滅危惧Ⅱ類

長野県：指定なし 環境省：指定なし

ゲンジスミレ

【源氏堇】

Viola variegata var. *nipponica* (斑紋のある) (日本の)

スミレ科 スミレ属



つけ、歩道整備、草刈りなどによる絶滅が心配されます。

特記事項

和名は葉の裏が紫色であることから紫式部を、そして、彼女の著作である源氏物語とたどって命名されました。

種の特徴

多年草で、4月、淡紅紫色の花を咲かせます。葉は円形で、表面は暗緑色、裏面は暗紫色です。日本で最初に発見されたのは長野市産のものです。

生育環境

明るい落葉樹林で日当たりのよい乾燥気味の場所を好みます。道端や土手などに生育します。

国内や県内の分布

本州（中部以北、岡山県）四国に分布、県内は全県ですが、中部に多いです。

市内の状況と絶滅危惧要因

倉科・八幡地区の2箇所のみです。道端に生育しています。各所5～6個体のみ見られます。踏み

絶滅危惧Ⅱ類

長野県：指定なし 環境省：指定なし

ミソハギ

【禊萩】

Lythrum anceps (茎に両翼のある)

ミソハギ科 ミソハギ属



特記事項

和名ミソハギは禊萩で神様に捧げるハギという意味です。

種の特徴

多年草で、葉は対生し、ほとんど葉柄がなく、茎にも葉にも毛がありません。8月頃葉のすぐ上に紅紫色の小さな花が3～5個集まって開きます。草丈は1mほどになります。

生育環境

山野の湿地に生育します。

国内や県内の分布

北海道から九州に分布、県内では全県に分布します。

市内の状況と絶滅危惧要因

大池の周囲の湿地に10～20個体生育しています。湿地の減少、池周辺の草刈りによる絶滅が懸念されます。

ウスゲヤナギラン

【薄毛柳蘭】

Epilobium angustifolium var. *pubescens*

アカバナ科 アカバナ属

(幅の狭い葉の)

(細軟毛のある)



種の特徴

多年草で、茎は直立し、分枝せず、高さ約1～1.5mに達します。葉は互生、披針形で長さ10cm程度になります。7～8月に茎の頭部に総状花序を出して、紅紫色の美しい花を開きます。花径は約3cmです。

生育環境

高原の草地に生育します。

国内や県内の分布

本州（中部地方以北）に分布します。県内は全県の亜高山帯で見られます。

市内の状況と絶滅危惧要因

大林山の1箇所のみで山頂の日当たりの良い草地に生育しています。10～20個体あります。高原の草原地の減少や自然遷移が絶滅の要因となっています。

特記事項

和名は葉の裏に薄く毛があり、葉は柳のように細く、ランのような花の咲く草という意味です。東北地方以北、北海道に生育する種はヤナギランといいます。

レンゲツツジ

【蓮華躑躅】

Rhododendron japonicum (日本の)

ツツジ科 ツツジ属



種の特徴

落葉の低木で多く枝分かれます。葉は倒披針形で、先は鈍形または円形です。花は5～6月に数個が散形状に頂生し、朱橙色の美しい花が横向きに咲きます。

生育環境

山地高原の明るい林内（シラカバ林内に特に多い）に生育します。

国内や県内の分布

本州、四国、九州に分布、県内は全県に分布します。日本固有種です。

市内の状況と絶滅危惧要因

などの森林整理による個体数の減少が懸念されます。

特記事項

和名は、この花のつぼみのかたまりが蓮華（ハス）の花に似ていることからつけられました。花が大きいことからオニツツジの別名もあります。花色が黄色のものはキレンゲと呼ばれています。

絶滅危惧Ⅱ類

長野県：指定なし 環境省：指定なし

ヒカゲツツジ

【日陰躑躅】
Rhododendron keiskei (学者伊藤圭介の)

ツツジ科 ツツジ属



は比較的少ないです。伐採や自然遷移による減少が懸念されます。

特記事項

和名は、日陰ツツジですが、生育地は明るい林内や林縁を好みます。ツツジ亜属とシャクナゲ亜属の中間的な存在です。

種の特徴

高さ1～2mの常緑低木です。葉は長さ5～10cmで互生し、枝先には輪生状に付きます。花期は5月で、直径約3cmの淡い黄色の花を枝先につけます。

生育環境

山地の崖や岩場、アカマツ林内等に多く生育します。

国内や県内の分布

本州（関東地方以西）、四国、九州に分布し、県内では全県下にわたり分布しますが北部には少ないです。日本固有種です。

市内の状況と絶滅危惧要因

市西部の筑北村境に近い林道沿いに分布し、株数

絶滅危惧Ⅱ類

長野県：指定なし 環境省：指定なし

トウゴクミツバツツジ

【東国三葉躑躅】
Rhododendron wadanum (採集者和田治衛の)ツツジ科
ツツジ属

特記事項

和名は、特に関東の山地に多く生育するからとされています。ユキグニミツバツツジと分布域を分けています。

種の特徴

落葉低木で、葉は枝の先に3枚輪生し、菱形状広卵形で葉先は短く尖ります。葉柄と中央脈裏面に白毛が密に生えるのが特徴です。4～5月に花径3～4cmの花を開きます。

生育環境

山地の岩の多い尾根筋に生育します。

国内や県内の分布

本州（東北から近畿の太平洋側）に分布、県内では南部、東部、中部に分布します。日本固有種です。

市内の状況と絶滅危惧要因

冠着山（中腹）のミズナラ林内に5～6個体、株状に生育しています。自然遷移や林内整備による個体数減少のおそれがあります。

絶滅危惧Ⅱ類

長野県：指定なし 環境省：指定なし

ヤマムグラ

【山葎】
Galium pogonanthum (ひげのある花の)

アカネ科 ヤエムグラ属



登山道の整備や森林間伐などによる個体数の減少が考えられます。

特記事項

和名は、山地生のムグラの意ですが、ムグラとは荒地や野原に繁る雑草の総称とされています。

種の特徴

高さ10~40cmの多年生草本。茎は細く、葉は4個輪生し、広線形をしています。長さ1~2cmで、輪生する葉は一對ずつ長さの異なるのが特徴です。

5~6月に数個の淡緑色の花をつけます。花びらにひげがあるのも特徴の一つです。

生育環境

山地のやや乾いた林内に生育します。

国内や県内の分布

本州、四国、九州に分布し、県内は中部、南部に稀産します。

市内の状況と絶滅危惧要因

冠着山の高木林の林床、登山道沿いに20~30個体生育しています。

絶滅危惧Ⅱ類

長野県：指定なし 環境省：指定なし

ハナイバナ

【葉内花】
Bothriospermum tenellum (非常に軟らかい)

ムラサキ科 ハナイバナ属



舗装、自然遷移などが個体数減少の要因となっています。

特記事項

和名は葉と葉の間に花がつくので葉内花といいます。

種の特徴

1~2年草で、キュウリグサに似ていますが、茎は群生し、一番根元は地面を這っています。春から秋、枝の上部の葉と葉の間に短い柄を持った瑠璃色の小さな花をつけます。5弁で花径は2~3mm、草丈は10~15cm程度です。

生育環境

路傍や畑地に生育しています。

国内や県内の分布

北海道から沖縄まで分布、県内は全県に分布します。

市内の状況と絶滅危惧要因

小坂山、八幡地区の棚田の林道上や畑地内に10~20個体生育しています。畑地の草取りや林道の

絶滅危惧Ⅱ類

長野県：指定なし 環境省：指定なし

シデシャジン

【四手沙参】
Asyneuma japonicum (日本の)

キキョウ科 シデシャジン属



種の特徴

多年草で茎は直立して高さ50cm～100cm。茎には隆起した縦の線があります。花期は7～9月で、萼が深く切れ込んで反転する紫色の特徴的な花を付けます。

生育環境

人里から低山帯の草地や林縁に生育します。

国内や県内の分布

本州と九州に分布し、県内では全県下にわたり分布します。

市内の状況と絶滅危惧要因

三滝、倉科・大田原地区に5～10個体生育しています。生育地の開発や自然遷移による減少が懸念されます。

特記事項

和名のシデとは、細く裂ける花の形を神前に供える紙の四手にたとえたもので、シャジンは同じキキョウ科のツリガネニンジン进行意味します。

絶滅危惧Ⅱ類

長野県：指定なし 環境省：指定なし

モミジガサ

【紅葉傘】
Parasenecio delphiniifolia (ヒエンソウ属のような葉の)

キク科 コウモリソウ属



種の特徴

草丈40～80cmの多年草で、葉の表面はやや光沢があり、長さ15cm、幅20cmに達し、モミジ状に裂けます。花期は8～10月で、茎の上部に5個ある筒状の白い花を多数咲かせます。

生育環境

山地の肥沃な林内の沢筋に多く、稀に道端にも生育します。

国内や県内の分布

北海道から九州に分布する日本固有種で、県内では全県下にわたり分布します。

市内の状況と絶滅危惧要因

倉科地区、荻沢川、中沢川に分布しますが、倉科地区の生育地では群落を形成しています。森林伐採や自然遷移による減少が懸念されます。

特記事項

和名は葉がモミジに似ていて傘状をしているという意味です。若芽は山菜となり、キノシタ、キノシタミツバなどと呼ばれています。

絶滅危惧Ⅱ類

長野県：指定なし 環境省：指定なし

メタカラコウ

【雌宝香】
Ligularia stenocephala (細い頭の)

キク科 メタカラコウ属



種の特徴

多年生の高茎草本です。高さは60～100cm程度、葉は三角状心形で、長さは20～25cmとなります。先は鋭くとがり、8～9月に茎の先に短い柄の黄色の花を総状につけます。1つの頭花は1～3個の雌性舌状花と6～7個の両性管状花が集まって咲きます。

生育環境

山地の明るい林縁や草地に生育します。

国内や県内の分布

本州、四国、九州に分布します。県内は全県に分布しています。

市内の状況と絶滅危惧要因

佐野川の沢状地の斜面に3～4個体が生育しています。土砂崩落、自然遷移による個体数の減少が懸念されます。

特記事項

和名は、オタカラコウよりやさしい感じである意で、宝香とは防虫剤にされる竜脳香のことで、根の香りがそれに似ているためと言われます。

絶滅危惧Ⅱ類

長野県：指定なし 環境省：指定なし

カタクリ

【片栗】
Erythronium japonicum (日本の)

ユリ科 カタクリ属



種の特徴

多年草で、葉は長さ6～12cm程度です。淡い緑色に暗い紫色の斑紋があるものや全く斑紋の無いものがあります。開花する個体は葉を2枚出し、3～6月に、10～20cmの花茎の先にピンク色～紅紫色の花を下向きに1つ付けます。花を覗き込むと桜に似た濃い紫色の斑紋があります。

生育環境

丘陵帯から低山帯の落葉樹林の林床や土手に生育します。

国内や県内の分布

北海道から九州に分布し、県内では全県下にわたり分布します。

市内の状況と絶滅危惧要因

八王子山、戸倉セツブンソウ群生地、大峰山、倉科地区など市内の数箇所に分布し、株数も比較的多いです。生育地の樹林開発による生育環境の変化が懸念されます。

特記事項

和名は、クリの子葉の一片に似ているからという説もあります。古名をカタカゴといい、傾いた籠状の花という意味です。この鱗茎からは本物の片栗粉がとれます。

アシカキ

【足掻き】
Leersia japonica (日本の)

イネ科 サヤヌカグサ属



種の特徴

多年生の水生草本で、高さ30～50cm、葉は長さ5～15cmになります。9～10月に穂を出し、花が咲きます。小穂は長さ4～6mmで、縁に白色の長い剛毛があるとされています。市内では秋にでる穂（花）はまだ見られません。

生育環境

平地の湿地や水田などの浅い半水中に生育しています。

国内や県内の分布

本州から沖縄に分布し、県内では北部、中部に分布しています。

市内の状況と絶滅危惧要因

大池、棚田、平沢池やその他、水田などに生育していますが、個体数は少ないです。生育地の減少、水質汚濁による絶滅が懸念されます。

特記事項

和名は植物体全体がざらつき、素足で水に入ると足をひっかくことによります。

ヒメザゼンソウ

【姫座禅草】
Symplocarpus nipponicus (日本本州の)

サトイモ科 ザゼンソウ属



上：全体 下：花

種の特徴

草丈20～40cmほどの多年草です。ザゼンソウに似ていますが小型で、花は葉が枯れた後に出来ます。花期は5～8月で、花を包む紫褐色の仏炎苞は長さ4～5cmと小さいです。

生育環境

低山帯の林内や林縁、道端などの湿地に生育します。

国内や県内の分布

北海道と本州（中国地方以北）に分布し、県内では全県下にわたり分布します。

市内の状況と絶滅危惧要因

権平、大田原、冠着山、高雄山に生育しますが、株数は比較的少ないです。樹林開発による湿地の消失や自然遷移による減少が懸念されます。

特記事項

和名は小型のザゼンソウの意味です。ザゼンソウは花序の様子が座禅を組む僧のように見えることからその名があります。

ミクリ

【実栗】
Sparganium erectum (直立した)

ミクリ科 ミクリ属



上：全体 下：果実

種の特徴

多年生(たねんせい)の水生(すいせい)草本(そうほん)で、高さ60~150cmで、葉は茎より高くなります。6~8月に上部の葉腋(ようえき)から枝を出し、花をつけます。1~3個の雌花(めぼな)と多くの雄花(おぼな)をつけます。

生育環境

沼や池、溝(みぞ)などの浅い水中に生育します。

国内や県内の分布

北海道、本州、四国、九州に分布します。県内は全県にわたりますが、分布地は非常に少ないです。

市内の状況と絶滅危惧要因

新田地区(しんでん)の用水内に生育し、地区では保護しています。市内唯一の産地です。河川の中に200~300個体生育していますが、河川の浚渫(しゅんせつ)、水質汚濁による個体数(けいたいすう)の減少(げんしょう)が懸念(けんねん)されます。

特記事項

和名(わな)は、果実(かじつ)が栗(い)に似ていることからその名があります。

ギンラン

【銀蘭】
Cephalanthera erecta (直立した)

ラン科 キンラン属



種の特徴

乾燥(かんそう)した松林(しょうりん)などに生える多年草(たねんそう)で、葉は長楕円形(ちやうだいてんけい)で茎を抱きます。細い直立した茎(くき)の先に、5~6月頃、清楚(せいしゆ)な感じの小さな白い花(はな)を3~5個つけます。花は全開(ぜんかい)せず花弁(はな)の先(せん)がとがっています。草丈(くさたけ)は約20cm程度です。

生育環境

乾燥(かんそう)した尾根筋(おねすじ)の林床(りんしょう)に生育します。

国内や県内の分布

北海道から九州に分布、県内は全県に分布しますが、個体数(けいたいすう)は少ないです。

市内の状況と絶滅危惧要因

森・倉科(くわ)・桑原地区(かんのう)の松林(しょうりん)など、乾燥(かんそう)気味(き)の林床(りんしょう)に生育(せいしゆ)しています。各所(かくしょ)とも2~3個体(こたい)のみです。採取(さいしゆ)圧(あつ)、自然遷移(しぜんせんい)などが絶滅(ぜつめつ)の要因(よきん)です。

特記事項

和名(わな)は白い花(はな)を開くラン(らん)であることから、銀蘭(ぎんらん)といます。山野(ときおり)で時折(ときおり)見かけるのは葉(は)の細長いササバギンラン(ささばぎんらん)です。

シュンラン

【春蘭】
Cymbidium goeringii (採集家ゲーリングの)

ラン科 シュンラン属



種の特徴

常緑多年草です。葉は多く、2列の扇状に出て上部は曲がって垂れます。葉のへりに粗い鋸歯があります。3～4月頃淡黄緑色の花径3～5cmくらいの花を咲かせます。葉の長さは20cm程度、草丈10～25cmです。

生育環境

乾燥した落葉樹林の林床に生育します。

国内や県内の分布

北海道から九州に分布、県内は全県に分布します。

市内の状況と絶滅危惧要因

一重山、霊静山の乾燥したコナラ林の林床で20～30個体程度見られます。野生動物の被食圧、採取圧などによる絶滅の危険性があります。

特記事項

和名は字の通り、春に咲くランを意味します。唇弁にある斑点を顔面の「ほくろ」にたとえてホクロという別名もあります。

エゾスズラン

【蝦夷鈴蘭】
Epipactis papillosa (乳頭状の)

ラン科 カキラン属



上：全体
下：花



種の特徴

多年草で、茎は直立して互生に葉をつけます。7～8月に淡緑色の紡錘型の花をつけます。花径およそ1cmくらいで、草丈は30～60cmです。

生育環境

高地の林下に生育します。

国内や県内の分布

北海道から九州に分布、県内は全県で見られます。

市内の状況と絶滅危惧要因

大林山の登山口の林道沿いで日当たりのよい斜面に生育し、15～20個体確認しています。採取圧や自然遷移による絶滅が懸念されます。

特記事項

和名は北海道のスズランの意です。スズランに似ていますが、緑色の花を開くことから、アオスズランとも呼ばれています。

準絶滅危惧

長野県：指定なし 環境省：指定なし

アカハナワラビ 【赤花蕨】 *Botrychium nipponicum* (日本本州の)

ハナヤスリ科 ハナワラビ属



種の特徴

とうりょくせい 冬緑性のシダ植物です。葉は20～30cmと大きくなります。
日の当たる山の林の下に生育します。名のように、秋から冬は葉が枯れたように紅茶色になります。

生育環境

きゅうりょうち 丘陵地の明るい林内に生育します。

国内や県内の分布

本州、四国、九州に分布、県内は中部、南部、東部に分布しています。

市内の状況と絶滅危惧要因

倉科地区の山麓部のスギの林床、北向き斜面に15～20個体生育しています。
森林の下草刈り、間伐、踏みつけ、自然遷移などが絶滅危惧の要因です。

特記事項

夏は緑の葉が秋から冬には赤茶色になります。和名は冬に葉が赤くなるハナワラビという意味です。

準絶滅危惧

長野県：指定なし 環境省：指定なし

シノブカグマ 【忍かぐま】 *Arachniodes mutica* (刺針のない)

オシダ科 カナワラビ属



種の特徴

じょうりょくせい 常緑性のシダ植物で、40～70cmの葉を持ち、葉身はかたく、光沢があります。主として、高い山(亜高山帯)の針葉樹林下に多く生育します。

生育環境

標高の高い針葉樹林の林床に生育します。

国内や県内の分布

北海道から本州、四国、九州(屋久島まで)に分布します。県内では全県の亜高山に分布しています。

市内の状況と絶滅危惧要因

大林山中腹の落葉樹林の急傾斜地で岩礫の多い林下に5～6個体のみ生育しています。自然遷移や環境改変による個体数の減少が懸念されます。

特記事項

和名はシノブに似た葉の質と葉のようすをもったカグマのことで、カグマとはシダの古名の一つです。

準絶滅危惧

長野県：指定なし 環境省：指定なし

シラネワラビ

【白根蕨】
Dryopteris expansa (拡がった)

オシダ科 オシダ属



種の特徴

常緑性のシダ植物で、草丈は50~80cm、葉身はやや五角形状の長楕円形、葉柄と葉身はほぼ同じ長さになります。葉柄には濃褐色の鱗片を密生させます。

生育環境

ブナ帯から亜高山帯の林下に生育します。

国内や県内の分布

北海道から九州に分布、県内は全県の亜高山帯に分布しています。

市内の状況と絶滅危惧要因

森地区の夕日山林道沿い（標高530m地点）の山地内の岩礫の多い草地、地下からの冷風を吹き上げる地域（風穴と呼んでいる場所）に2~3個体生育しています。自然遷移や環境変化が絶滅危惧の要因です。

特記事項

和名は日光の白根山で名付けられたワラビの意味です。“風穴”周辺は亜高山帯の気候と考えられます。

準絶滅危惧

長野県：指定なし 環境省：指定なし

ベニシダ

【紅羊歯】
Dryopteris erythrosora (赤い胞子のう群のある)

オシダ科 オシダ属



上：本体 下：胞子

種の特徴

常緑のシダ植物で、葉の長さは50~100cm。葉は深い緑色で光沢があり、若い葉や若い胞子を包む膜は赤色を帯びます。

生育環境

低山帯下部の林床に生育します。

国内や県内の分布

本州・四国・九州に分布し、県内では北部・南部に分布しますが南部に多く見られます。

市内の状況と絶滅危惧要因

佐野川支流の沢筋や大田原地区など分布地は少なく、個体数も30~50個体程度です。砂防事業や樹木の伐採による生育地の変化が絶滅危惧の要因です。

特記事項

和名は、春に見られる若葉や葉裏の胞子が紅色を帯びていることが由来です。

準絶滅危惧

アベマキ

【構】
Quercus variabilis (多型の)

ブナ科 コナラ属



上：アベマキ幹
下：葉裏（左がクヌギ、右がアベマキ）

種の特徴

高さ10～15mで、太さは直径40～50cmとなる落葉高木です。樹皮は厚く、コルク層がよく発達しています。葉はクヌギに似ていますが、裏面には小星状毛が密生して灰白色になり、葉柄に離層ができませんので、枯葉は翌年の春までついています。かつてはコルクをとるために植栽されたとも言われます。

生育環境

低標高の山地に生育します。

国内や県内の分布

本州（山形県以南）、四国、九州に分布、県内では南部（伊那谷、木曾谷）に分布しています。

市内の状況と絶滅危惧要因

主として、戸倉地区の低標高山地で、クヌギ、コナラなどと混生して林を形成しています（県南部からの隔離分布の北限と考えられます）。個体数はかなり多いと推定されますが、間伐や森林整備により個体数減少のおそれがあります。

特記事項

和名はアバタマキの転化で、アバタとは木の幹のコルク層の凹凸を意味し、別名をワタクヌギ、コルククヌギ、ワタマキなどと言います。

準絶滅危惧

長野県：指定なし 環境省：指定なし

オヒョウ

【アイヌ語のapiw】
Ulmus laciniata (細かく分裂した)

ニレ科 ニレ属



種の特徴

常緑性の高木です。樹高25m、太さ1mほどになります。樹皮は縦に細かい溝が入ります。老木になると鱗状にはがれてきます。葉の先が3～5裂することからヤナともいいます。

生育環境

山地帯から亜高山帯の渓谷、土石流の跡地などに生育します。

国内や県内の分布

北海道、本州、四国、九州に分布、県内は全県ですが個体数が少ないです。

市内の状況と絶滅危惧要因

大林山、佐野川中流、鏡台山（床滑沢）の湿性の沢に各地とも2～3個体生育しています。森林整備、自然遷移が絶滅危惧の要因です。

特記事項

和名はアイヌ語のオピウ（apiw）が転化したものと言われ、オピウとはオヒョウの樹皮のことをいいます。アイヌのアツシという織物はこの樹皮でつくった布です。

準絶滅危惧

長野県：準絶滅危惧 環境省：指定なし

ホソバイラクサ

【細葉刺草】
Urtica angustifolia (幅の細い葉の)

イラクサ科 イラクサ属



種の特徴

多年草で、茎にとげがあり、葉は対生、長さは10～15cmで先は細長くとがり、托葉が各節に4枚つきます。花期は8～9月で雌雄異株、草丈は50～150cm程度になります。

生育環境

林縁部や溝などの端に生育します。

国内や県内の分布

北海道から九州、県内は北部や中部に分布しています。

市内の状況と絶滅危惧要因

千曲川の河原（水辺の楽校造成地）の礫の多い砂泥地に大群落を形成しています。

河川改修や、洪水などの自然災害による個体数減少の危険があります。

特記事項

和名は葉の細長いイラクサの意味です。イラクサはイタイタグサ（痛痛草）の別名があります。本種はエゾイラクサとの区別が難しい種です。

準絶滅危惧

長野県：指定なし 環境省：指定なし

クリンユキフデ

【九輪雪筆】
Bistorta suffulta (支持した)

タデ科 イブキトラノオ属



種の特徴

低山帯から亜高山帯の山地の林下や林縁に生える多年草で、草丈は15～40cm、葉はハート型、茎の上部の葉は茎を抱きます。5～7月に穂状の白い花を密に咲かせます。

生育環境

低山帯から亜高山帯の山地の林下や林縁、林道脇などに生育します。

国内や県内の分布

本州、四国、九州に分布し、県内では全県下にわたり分布します。

市内の状況と絶滅危惧要因

冠着山の不動滝周辺や坊城平で10～15個体程度の生育を確認しました。生育地の自然遷移による減少が懸念されます。

特記事項

和名は何段にもつく葉を九輪塔に、白い花を雪に、花穂を筆に見立てたのが由来です。

準絶滅危惧

長野県：指定なし 環境省：指定なし

ニンソウ

【二輪草】
Anemone flaccida (ぐにやぐにやした)

キンポウゲ科 イチリンソウ属



種の特徴

多年草で、しばしば群生します。切れ込みの深い葉を3枚輪生でつけます。花期は4～5月で、茎の上に花茎を伸ばし、白色の花を1～4個つけます。この花が2個ずつのものが多いので、その名があります。花径は約2cm、草丈は15～30cm。

生育環境

山地や山すその林下、林縁や草原に生育します。

国内や県内の分布

北海道から九州、県内では全県に分布しています。

市内の状況と絶滅危惧要因

倉科地区、冠着山、鏡台山林縁部や湿性地に群生しますが、限局的です。採取圧や自然遷移、山の手入れ不足などにより、個体数減少のおそれがあります。

特記事項

若葉は食用となりますが、トリカブト(毒)に似ているので注意が必要です。地上部は早春に出現し、初夏には枯れてしまうスプリングエフェメラルです。

準絶滅危惧

長野県：指定なし 環境省：指定なし

トリガタハンショウヅル

【鳥形半鐘蔓】
Clematis tosaensis (土佐の)

キンポウゲ科 センニンソウ属



種の特徴

山地の林縁に生えるつる性の多年草です。4～5月に白色の花をつけます。ハンショウヅルに似ていますが、萼片の質はうすく、先は広く丸いです。外面に白毛が目立ち、花柄は萼より短いです。

生育環境

林縁のマント群落内に生育します。

国内や県内の分布

本州、四国に分布、県内は北部に多く、南部に少ないです。日本固有種です。

市内の状況と絶滅危惧要因

岩井堂山の1箇所のみで、道路沿いの低木林内に1～2個体生息しています。林道の改修、整備、自然遷移などが絶滅危惧の要因です。

特記事項

和名は高知県の鳥形山で発見されたことによります。別名をアズマハンショウヅルともいいます。

準絶滅危惧

長野県：指定なし 環境省：指定なし

マンセンカラマツ

【満鮮唐松】
Thalictrum aquilegifolium var. *sibiricum*
(オダマキ属のような葉) (シベリアの)

キンポウゲ科
カラマツソウ属



種の特徴

多年草で、茎は直立し、高さ1 m以上になります。上部で分枝し、その先に花序をつけます。花は白色で、めしべは3～8個、そう果が10個以下で先がとがらないことでカラマツソウと区別できます。花は8月に咲きます。

生育環境

山地から高山の草地に生育します。

国内や県内の分布

本州、四国、九州に分布、県内は全県に分布しています。

市内の状況と絶滅危惧要因

冠着山の山中の草地に10個体ほど生息しています。草刈り、草地の自然遷移が絶滅危惧の要因です。

特記事項

カラマツソウの変種で、満(マン)は満州、鮮(セン)は朝鮮半島の意味です。

準絶滅危惧

長野県：指定なし 環境省：指定なし

ウスバサイシン

【薄葉細辛】
Asarum sieboldii (シーボルトの)

ウマノスズクサ科 カンアオイ属



種の特徴

山地のやや湿った樹林下に生える多年草です。夏緑性で、常緑のカンアオイ類に比べると葉が薄いのが特徴です。3～5月に、葉柄の基部に暗褐色の花を横向きにつけます。

生育環境

山地のやや湿った樹林下や林縁に生育します。

国内や県内の分布

本州・四国・九州に分布し、県内では全県下に分布しますが、北部や中部の多雪地に多いです。日本固有種です。

市内の状況と絶滅危惧要因

倉科・戸倉地区、樺平、冠着山、岩井堂山などの標高400～1000m前後の林内で、株数も比較的多いです。生育地の自然遷移による減少が懸念されます。

特記事項

ヒメギフチョウの幼虫の唯一の食草となっています。

和名は薄い葉のサイシンという意味で、サイシンとは漢方薬の“細辛”の字音からきたものです。

準絶滅危惧

長野県：指定なし 環境省：指定なし

オノマンネングサ

【雄之万年草】
Sedum lineare (線形の)

ベンケイソウ科 マンネングサ属



種の特徴

草丈15cm程度になる多年草です。線形の葉は多肉質で、ほかのマンネングサにくらべると長さ2～3cmと細長く、3輪生して密につきます。5～6月に、花茎の先に直径1.5cmの黄色い5弁花をつけます。

生育環境

日当たりの良い岩の上や石垣、河川のコンクリート護岸などでも生育します。

国内や県内の分布

本州から九州に分布し、県内では全県下にわたり分布しますが稀です。

市内の状況と絶滅危惧要因

長楽寺の残岩の岩上や川西地区の限られた岩場に生育しますが株数は少ないです。生育地の自然遷移による減少が懸念されます。

特記事項

和名は雌之万年草に対して大きいことや、なかなか枯れず、永く生育することから名付けられ、葉が鋭く尖っていることからタカノツメとも呼ばれます。

準絶滅危惧

長野県：指定なし 環境省：指定なし

カワラサイコ

【河原柴胡】
Potentilla chinensis (中国の)

バラ科 キジムシロ属



種の特徴

草丈30～40cmになる多年草です。地面に放射状に茎を伸ばし、羽状の葉を広げます。キジムシロの仲間ですが葉は細く、6～8月に茎の上部に1～1.5cmの黄色い5枚花弁の花を咲かせます。

生育環境

低山帯の河川の砂地に生育します。

国内や県内の分布

本州、四国、九州に分布し、県内では全県下にわたり分布します。

市内の状況と絶滅危惧要因

万葉の里スポーツエリア周辺の千曲川の堤防道路で、10～15個体の生育を確認しました。自然遷移や道路整備による個体数の減少が懸念されます。

特記事項

和名は太い根が、薬用にされる柴胡（ミシマサイコ）に似ていて、河原に生えるということが名の由来です。

準絶滅危惧

長野県：指定なし 環境省：指定なし

クサイチゴ

【草莓】
Rubus hirsutus (多毛の)

バラ科 キイチゴ属



特記事項

和名は丈も低く、姿が草のように見えることからつけられました。

種の特徴

夏緑性の小低木です。高さ30~60cmで茎には短い軟毛と腺毛が生え、刺がまばらにあります。4~5月に直径4cmほどの白い花が咲きます。5~6月には果実が熟すことからワセイチゴの名もあります。

草のように見えないキイチゴです。

生育環境

山地の開けた草地、尾根筋などに生育します。

国内や県内の分布

本州、四国、九州に分布、県内では、北部と南部(下伊那南部)に分布しています。

市内の状況と絶滅危惧要因

高尾山の尾根上の草地(ヒノキ植林地内)に5~6個体生育しています。登山道の整備、自然遷移による個体数の減少が懸念されます。

準絶滅危惧

長野県：指定なし 環境省：指定なし

バライチゴ

【薔薇莓】
Rubus illecebrosus (ナデシコ科の属のような)

バラ科 キイチゴ属



特記事項

和名は茎や葉軸に鋭い刺が多いので、この名がありますが、別名は奥山で生育するためミヤマイチゴともいいます。

種の特徴

夏緑性の小低木で、高さは20~50cm、茎は無毛で角ばり、刺があります。葉は奇数羽状複葉で、小葉は2~3対あります。6~7月に咲く花は直径4cmほどで大きいです。

生育環境

低山帯の山地の日当たりのよい草地に生育します。

国内や県内の分布

本州(関東地方以西)、四国、九州に分布、県内では南部に多く、中部と東部は稀です。日本固有種です。

市内の状況と絶滅危惧要因

三峯山の山頂部の草地に4~5個体生育しています。登山道整備、自然遷移による減少のおそれがあります。

準絶滅危惧

長野県：指定なし 環境省：指定なし

フジカンゾウ

【藤甘草】
Desmodium oldhamii (採集家オルダムの)

マメ科 ヌスビトハギ属



種の特徴

山林の木陰に生える多年草です。8月頃、尾状に長く伸びた花茎に淡い紅紫色の小さな花をつけます。果実は2〜3節に深く大きくくびれます。草丈は1〜1.5mくらいになります。

生育環境

カラマツ林下や林縁の土手に生育します。

国内や県内の分布

本州、九州に分布、県内は中部と南部に多く、北部では少ないです。

市内の状況と絶滅危惧要因

倉科地区の湿気の多い暗い樹林内に10〜15個体生育しています。森林の間伐、林内の整備、自然遷移による個体数の減少が懸念されます。

特記事項

和名は花がフジに似ていて、葉はカンゾウに似ているからという意味で、また、果実の形からヌスビトノアシという別名もあります。

準絶滅危惧

長野県：準絶滅危惧 環境省：指定なし

ミヤマタニワタシ

【深山谷渡】
Vicia bifolia (二葉の)

マメ科 ソラマメ属



種の特徴

多年生の草本植物で、高さ25〜30cm、ナンテンハギによく似ていますが、2枚の小葉が細く先がとがり、茎はやや細く、ジグザグに曲がるなどの特徴があります。

6〜8月に紫色の長さ15mmほどの花がさきます。

生育環境

山地内の草地や林道の端に生育しています。

国内や県内の分布

本州（中部地方）に分布、県内は南部に多く、中部、東部に少ないです。日本固有種です。

市内の状況と絶滅危惧要因

倉科地区の百瀬の林道脇の草地に15個体ほど生育しています。林道の整備、自然遷移により個体数の減少が懸念されます。

特記事項

和名は、奥山にあって谷川べりに横たわって生育することが多いということなのか、別名としてのミヤマナンテンハギの方がわかりやすいです。

準絶滅危惧

長野県：絶滅危惧Ⅱ類 環境省：指定なし

ニシキソウ

【錦草】
Euphorbia pseudochamaesyce (トウダイグサ科に似たもの)

トウダイグサ科
トウダイグサ属



個体数は80~100個体程度ありますが、最近減少しています。除草剤の使用や過度の草刈りなどが個体数減少の要因です。

特記事項

オオニシキソウ、コニシキソウはアメリカ原産ですが、ニシキソウは日本の在来種です。

種の特徴

畑地や砂地に生える一年草です。茎は紅色で立ち上がり、草丈5~10cmの小さな草です。葉は茎の両側に対生し、基部は左右非対称で、蒴果が無毛であることが特徴です。

生育環境

畑、道路、空き地などに生育します。

国内や県内の分布

本州から沖縄に分布、県内の北部、中部に分布しています。

市内の状況と絶滅危惧要因

生萱や杭瀬下の除草していない畑や道路端に生育しています。

準絶滅危惧

長野県：指定なし 環境省：指定なし

エゾユズリハ

【蝦夷譲葉】
Daphniphyllum macropodum var. *humile*
(長い柄の) (低い)

ユズリハ科 ユズリハ属



種の特徴

樹高1m内外の常緑低木です。長さ10~15cmの葉は楕円形で互生し、枝の先端では輪生状につきまます。花期は5~6月で、萼と花弁の無い橙赤色の小花が、葉の付け根の花穂に多数つきまます。雌雄異株で果実は楕円形で紫黒色に熟します。ユズリハ(高木)の雪国変種です。

生育環境

山地帯のブナ林などの林床に生育します。

国内や県内の分布

北海道から本州(中北部の日本海側)に分布し、県内では主に北部の多雪地に分布します。日本固有種です。

市内の状況と絶滅危惧要因

市西部のブナ林内に20m×20m程度の比較的まとまった群落を形成しています。樹林の伐採や自然遷移による減少が懸念されます。

特記事項

和名のユズリハは、夏の終わり頃に新しい葉に代わって古い葉が落ちることに由来し、エゾは北海道など蝦夷地方に多いことによります。



上：全体 下：果実

準絶滅危惧

長野県：指定なし 環境省：指定なし

ツルシキミ

【蔓密】

Skimmia japonica var. *intermedia* f. *repens*
(日本の) (中くらいの) (匍匐する)

ミカン科 ミヤマシキミ属



種の特徴

高さ30~100cmの常緑小低木で、茎の下部は地面を這い、先端部は斜めに立ち上がります。雌雄異株で、5~6月に枝先に直径1センチほどの白い花を球状に多数つけます。果実は球形で、紅色に熟します。

生育環境

山地帯のブナ林などの林床に生育します。

国内や県内の分布

北海道と本州（東北地方および中部地方以西の日本海側）に分布し、県内では全県下にわたり分布します。

市内の状況と絶滅危惧要因

市南部の筑北村境に近い落葉広葉樹林内に1箇所、約100m×50mの範囲に群落を形成しています。

す。樹林の伐採や自然遷移による減少が懸念されます。

特記事項

全草及び果実に含まれるアルカロイドを含有毒です。別名をツルミヤマシキミともいい、つるがあり、深山にあるシキミに似ているという意味です。シキミは有毒植物で、枳と書き仏の木と呼ばれています。

準絶滅危惧

長野県：指定なし 環境省：指定なし

ヒメハギ

【姫萩】

Polygala japonica (日本の)

ヒメハギ科 ヒメハギ属



種の特徴

常緑の多年草で、茎は硬く、鉄線状で根元から東になって生えています。葉は越冬し、長さは1~3cmです。花は白から紫を帯びた色で、蝶のような形をしており、大きさは5~8mm程度です。4~7月に咲き、草丈10~20cm程度になります。

生育環境

日当たりのよい丘陵地に生育しています。

国内や県内の分布

北海道から沖縄に分布、県内は全県に分布しています。

市内の状況と絶滅危惧要因

五里ヶ峯、小坂山の路傍の礫地や土手に5~10個体生育しています。1個体が数本に枝分かれしま

す。踏みつけや自然遷移、草刈りなどで個体数の減少が懸念されます。

特記事項

和名は紫色の花がハギに似ていて、草丈が小さいことによります。

準絶滅危惧

長野県：指定なし 環境省：指定なし

ケケンポナシ

【毛玄圃梨】
Hovenia tomentella (細綿毛のある)

クロウメモドキ科 ケンポナシ属



上：全体 下：果序軸

種の特徴

落葉高木で、6～7月に淡緑色の集散花序をつけ、9～10月に果実は紫褐色に熟します。果序軸が肥厚し甘味が強く食べられます。枝や葉裏、果実に赤褐色の毛があり、葉が乾燥すると赤褐色になるなど、ケンポナシとの違いがあります。

生育環境

山地の落葉樹林内に生育します。

国内や県内の分布

本州（関東以西）と四国に分布、県内は全県ですが、分布地は偏っています。

市内の状況と絶滅危惧要因

森・羽尾・八幡地区の広葉樹林内に単木状に生育しています。3～4個体確認しています。森林の整備、間伐により減少のおそれがあります。

特記事項

須坂地区の三島神社では市の保存樹木に指定された3本が生育しています。

準絶滅危惧

長野県：指定なし 環境省：指定なし

オオバボダイジュ

【大葉菩提樹】
Tilia maximowicziana (学者マキシモヴィッチの)

シナノキ科 シナノキ属



種の特徴

落葉高木で、葉は大きく長さ10cmあまりで、裏面に星状毛が密生します。そのため芽吹き時は銀色に輝いて見えます。6月頃淡黄色の花をつけ、その基部に舌状の白い苞が付きまします。樹高は7～8mとなります。

生育環境

山地帯の落葉樹林内に生育します。

国内や県内の分布

北海道、本州（中部地方以北）に分布し、県内は北部、中部に分布します。日本固有種です。

市内の状況と絶滅危惧要因

桑原・森地区の広葉樹林内（標高1000m前後の場所）に10～15個体程度生育しています。森林の整備、間伐などが個体数減少の要因となっています。

特記事項

中国原産のボダイジュ、ヨーロッパ原産のセイヨウボダイジュは庭園などに植栽されていますが、本種は山地に自生するボダイジュです。

準絶滅危惧 長野県：指定なし 環境省：指定なし

ヒゴスミレ

【肥後堇】 *Viola chaerophylloides f. sieboldiana* (掌状の葉) (学者シーボルトの) スミレ科 スミレ属



林道の整備、草刈りによる個体数の減少が懸念されます。

特記事項

和名は肥後の国(熊本県)に産するスミレとしてつけられました。

種の特徴

日当たりのよい草原や落葉樹林を好みます。葉が基部まで五裂します。花後は大きく伸びます。4～5月に茎の上部に丸味をおびた白い花を開き、花には芳香があります。草丈は7～8cm程度です。

生育環境

山地の日当たりの良い草地、林内に生育します。

国内や県内の分布

本州(宮城県以南)、四国、九州に分布、県内は、中部、東部、南部に分布します。

市内の状況と絶滅危惧要因

八幡地区で使用されることの少ない林道の土手に数箇所小さな群落を形成しています。

準絶滅危惧 長野県：指定なし 環境省：指定なし

トチバニンジン

【栃葉人參】 *Panax japonicus* (日本の) ウコギ科 トチバニンジン属



種の特徴

山の林内に生える多年草で、葉はトチノキの葉に似ています。6～8月に30cmぐらいの茎の頂に花火のように放射状に広がった淡緑色の小さな花を咲かせます。果実は球形で赤く熟します。

生育環境

広葉樹林下に生育します。

国内や県内の分布

北海道から九州に分布、県内は全県に分布します。

市内の状況と絶滅危惧要因

倉科・上山田地区、冠着山などに生育します。コナラ林や低木林内に生育します。各所とも2～3個体です。森林整備や自然遷移が個体数減少の要因です。

特記事項

和名はトチの葉に似た葉のつく人參という意味です。根茎が竹の節に似ているため、チクセツニンジン(竹節人參)とも呼ばれ、薬草としても有名で、健胃、去痰に薬効があります。

準絶滅危惧

長野県：指定なし 環境省：指定なし

ナガバイワカガミ

【長葉岩鏡】

Schizocodon soldanelloides f. *longifolius*
(イワカガミダマシ属に似た) (長い葉の)イワウメ科
イワカガミ属

種の特徴

常緑性の多年性草本植物で、葉の長さ5～8 cm、形は卵形でオオイワカガミに比べて鋸歯がするどく数も多いです。
5～6月に白色または紅色の花を開きます。

生育環境

山地の岩場に生育します。

国内や県内の分布

北海道（南部）、本州に分布、県内は東部、中部に分布しています。

市内の状況と絶滅危惧要因

樺平、四十八曲峠の岩の多い落葉樹林内に10～20個体生育しています。自然遷移が個体数減少の要因となります。

特記事項

和名は、長い葉をもつイワカガミです。イワカガミは岩に生え、葉の表面が鏡のように光るからとされています。県植物誌では、ヤマイワカガミと記載してありますが後に訂正されています。

準絶滅危惧

長野県：指定なし 環境省：指定なし

アキノギンリョウソウ

【秋の銀竜草】

Monotropa uniflora (一花の)イチャクソウ科
ギンリョウソウ属

上：花後の全体
右：花

種の特徴

ギンリョウソウに似ていますが、子房に十条ほどの浅い縦の溝があります。8～10月、下向きに白～透明色の花が付き、後に首を持ち上げ立ち上がります。
その後植物体が乾燥し、褐色になります。

生育環境

落葉の多い樹林内に生育しています。

国内や県内の分布

北海道（南部）から九州に分布、県内は全県ですが、少ないです。

市内の状況と絶滅危惧要因

新山・戸倉地区の乾燥気味の広葉樹林の林床に生育します。
各所に2～3個体ずつあります。
森林整備や自然遷移が絶滅危惧の要因です。

特記事項

和名は、秋になってから生育し、花を咲かせるギンリョウソウということで、別名をギンリョウソウモドキともいいます。腐生植物のため、毎年同じ所に出現しません。

準絶滅危惧 長野県：指定なし 環境省：指定なし

シロバナイブキジャコウソウ 【白花伊吹麝香草】 *Thymus quinquecostatus* f. *albiflorus* シソ科
 (五本の主脈のある) (白花の) イブキジャコウソウ属



種の特徴
 高さ 5～10cmほどの小低木で、イブキジャコウソウの白花品種です。全体によく香りがあり、長さ 5～10mmの葉は対生して短い柄につき、卵形で基部はくさび形です。花期は 6～8月で、白色の花が枝の先端部に集まって密につきます。

生育環境
 山地から高山帯の日当たりの良い草地や岩場、礫地に生育します。

国内や県内の分布
 イブキジャコウソウは北海道から九州に分布し、県内では全県下にわたり分布します。

市内の状況と絶滅危惧要因
 シロバナイブキジャコウソウは大林山と長楽寺の

姥岩に生育しますが株数は少ないです。イブキジャコウソウは市内各所の日当たりの良い場所に生育しています。採取や生育地の自然遷移による減少が懸念されます。

特記事項

和名のイブキジャコウソウは、滋賀県の伊吹山に多く自生し、麝香のような香りがすることから名付けられました。

準絶滅危惧 長野県：指定なし 環境省：指定なし

ヤマホロシ 【山保呂之】 *Solanum japonense* (日本産の) ナス科 ナス属



種の特徴
 ややつる性の多年草です。茎は細かく枝分かれして四方に拡がります。葉は細長い卵形で 3～7cm。7～8月に淡い紫色の反り返る花を咲かせ、秋には果実を赤く熟します。

生育環境
 山地の明るい林縁に生育します。

国内や県内の分布
 北海道から九州に分布し、県内では全県下にわたり分布しますが南部に多いです。

市内の状況と絶滅危惧要因
 倉科の百瀬で生育を確認しましたが株数は少ないです。生育地の自然遷移による減少が懸念されます。

特記事項
 ヒヨドリジョウゴの古名が保呂之(ほろし)でこの種に似ているため「ヤマ」をつけたというのが和名の由来とされています。別名をホソバナホロシともいい、ヒヨドリジョウゴによく似ています。



上：全体 下：花

準絶滅危惧

長野県：指定なし 環境省：指定なし

フジウツギ

【藤空木】
Buddleja japonica (日本の)

フジウツギ科 フジウツギ属



種の特徴

らくよう 落葉低木で、明るい陽の当たる あ 荒地や林縁部^{りんえんぶ}に生えます。若枝には4つの角^{かど}があり、その上に翼^{よく}があります。花は8～9月、15cm余りの穂状^{すくたじょう}になり紫色の藤のように斜^{なな}めに垂^たれます。樹高はおよそ1～1.5mになります。

国内や県内の分布

本州（東北地方から兵庫県の太平洋側）、四国に分布、県内は全県に点在します。日本固有種です。

市内の状況と絶滅危惧要因

上山田・森地区の2カ所で、乾燥^{かんそう}気味の道路の斜^{しゃめん}面や河岸の石垣にあわせて20個体前後が株状に生育しています。道路の整備、河岸の整備により減少するおそれがあります。

特記事項

和名は藤色の花が咲き、幹がウツギに似ていることから、最近ではブツレア（属名）という名で園芸品が多く出回っています。

準絶滅危惧

長野県：指定なし 環境省：指定なし

サギゴケ

【鷺苔】
Mazus miquelii f. *albiflorus* (分類学者ミケルの) (白花の)ゴマノハグサ科
サギゴケ属

種の特徴

たねんそう 多年草です。茎は短く、葉を根^{こん}ぎわに群生^{ぐんせい}します。この間から、長さ5～10cmの花茎^{かけい}を出します。花径は約1.5～2cmで、4～5月頃まばらに数個の真っ白な花をつけます。

生育環境

あぜ 田の畦等に生育します。

国内や県内の分布

本州から九州、県内では全県に分布しますが、東信地区には稀^{まれ}です。

市内の状況と絶滅危惧要因

けいはん 須坂と稲荷山地区の畦畔^{けいはん}に10～15個体程度のみ生育しています。水田減少や草刈りにより減少するおそれがあります。

特記事項

和名は、花の形がサギの頭を思わせるからと言われ、サギシバとの別名もあります。花の色が紫色のものを、ムラサキサギゴケと呼びます。

準絶滅危惧

長野県：指定なし 環境省：指定なし

オオヒナノウスツボ

【大雛の白壺】
Scrophularia kakudensis (角田山(新潟県)に産する)

ゴマノハグサ科
ゴマノハグサ属



種の特徴

たねんせい とうけいそうほん
多年生の高茎草本植物です。高さは約100cmとなり、茎は4稜形をしています。葉は対生し、長さは6～10cmで先が尖ります。8～9月に茎の上部に円錐状に暗紫色の花をつけます。

生育環境

日当たりのよい草地や林縁りんえんに生育します。

国内や県内の分布

北海道から九州に分布、県内では中部、東部、南部には稀まれに分布しています。

市内の状況と絶滅危惧要因

倉科地区の百瀬の林道、鏡台山の沢に面した草地にそれぞれ3～4個体生育しています。林内整備や自然遷移により減少するおそれがあります。

特記事項

和名は小さな花の形を白うすや壺つぼに見立てたとされていますがイメージはもうひとつはつきりしません。

準絶滅危惧

長野県：準絶滅危惧 環境省：準絶滅危惧

カワヂシャ

【川萵苣】
Veronica undulata (波状の)

ゴマノハグサ科 クワガタソウ属



種の特徴

くき やわ ちよくりつ しゃじょう
茎が柔らかく直立または斜上して高さ10～50cmになる二年草です。葉は対生し、長楕円形で先は尖ります。葉の脇に細長い花序を出し、5～6月に、白色で紫色の筋のある小さな花を2個ずつ下方から上方へ順次咲かせます。

生育環境

川や水田などの水際みずぎわに生育します。

国内や県内の分布

本州から沖縄に分布し、県内では北部、中部、東部に分布します。

市内の状況と絶滅危惧要因

千曲川の河川敷や川岸に生育しますが株数は少ないです。外来種のオオカワヂシャが分布を拡げ、交雑こうざつしていますが河川改修や自然遷移による減少が懸念されます。

特記事項

チシャはキク科の野菜(レタスやサラダ菜など)を意味し、カワヂシャの若葉はチシャに似て食べられることから名前が付けられました。

準絶滅危惧

長野県：準絶滅危惧 環境省：準絶滅危惧

イヌタヌキモ

【犬狸藻】
Utricularia australis (南方系の)

タヌキモ科 タヌキモ属



種の特徴

多年生の浮遊食虫植物です。花茎は水面上に出て、5～7cmの茎の先に8～9月に総状花序をつけ、黄色の花を1～2個つけます。地下茎はなく、水中に浮かんでいます。越冬芽が枝軸に生ずることがタヌキモとの区別点とされています。

生育環境

富栄養の湖沼の水中に生育します。

国内や県内の分布

本州、四国、九州に分布、県内では、全県ですが分布地は少ないです。

市内の状況と絶滅危惧要因

大田原地区のため池（用水池）1箇所のみで生育

です。水質汚濁、池内の清掃、池の整備などが絶滅危惧の要因と考えられます。

特記事項

和名は植物体全体の形がタヌキの尾のようであることからです。そのうちの花軸の短い種にイヌとつけたとされています。

準絶滅危惧

長野県：指定なし 環境省：指定なし

オミナエシ

【女郎花】
Patrinia scabiosifolia (マツムシソウ属のような葉の)

オミナエシ科
オミナエシ属



種の特徴

山の草原または林縁に生える多年草です。7～8月、茎の上部に笠状に黄色の細かい花を多数つけます。草丈は60～100cm程度。秋の七草のひとつに数えられています。

生育環境

山地の草原に生育します。

国内や県内の分布

北海道から九州に分布、県内は全県の標高1000m前後の草原に分布します。

市内の状況と絶滅危惧要因

岩井堂山、大林山の山頂の草原、葎生林道の路傍にそれぞれ4～5個体生育しています。草刈りや自然遷移による個体数の減少のおそれがあります。

特記事項

和名はオトコエシより全草が優しいので女性にたとえたということですが、“女郎花”の語源は不明です。奈良時代よりこのように表記されています。

準絶滅危惧

長野県：絶滅危惧Ⅱ類 環境省：指定なし

カントウヨメナ

【関東嫁菜】

Aster yomena var. *dentatus* (ヨメナ) (鋭い鋸歯の)

キク科 ヨメナ属



種の特徴

多年草で、ノコンギクに似ています。葉は長楕円形で両面に密に毛があります。花径は2.5～3cmで、8～10月頃、周りが青白色または紫色の花をつけます。冠毛はごく短いです。草丈は80cm以下です。

生育環境

人里近くの湿地、湿った水田の土手や草地に生育します。

国内や県内の分布

本州（関東以北）に分布し、県内は北部と東部に分布します。

市内の状況と絶滅危惧要因

戸倉地区の3箇所、田の畦や土手で15～20個体程度生育しています。除草剤の使用や草刈りが絶滅危惧の要因です。

特記事項

和名のヨメナは食用とするこの類の中で、味も良く、美しい花を咲かせるからといわれ、関東地方に多産します。ちなみにムコナはシラヤマギクのことを言います。

準絶滅危惧

長野県：指定なし 環境省：指定なし

スズラン

【鈴蘭】

Convallaria majalis (五月に咲く)

ユリ科 スズラン属



種の特徴

多年草で、2～3枚の葉が根元から出ます。5月頃、鐘状の白色で花径1cm程度の花を開きます。草丈は20～30cmほどです。

生育環境

日当たりの良い草原や明るい林床に生育します。

国内や県内の分布

北海道から九州、県内は中部、東部、南部に分布しています。

市内の状況と絶滅危惧要因

鏡台山、冠着山の登山道沿いの林内に、15～20個体程度産出します。採取圧、森林の手入れ不足、自然遷移により個体数の減少が懸念されます。

特記事項

和名は花の形を鈴に見立てたものです。また花が可愛らしいことから、「君影草（キミカゲソウ）」の別名もあります。

準絶滅危惧

長野県：指定なし 環境省：指定なし

マイヅルソウ

【舞鶴草】
Maianthemum dilatatum (拡張した)

ユリ科 マイヅルソウ属



種の特徴

茎の高さは10～20cm程度の多年草で、途中に長いハート形の葉を2枚付けます。5～7月に茎の頂きに小さな白い花を20個ほど咲かせます。

生育環境

山地帯上部から亜高山帯の林縁や林床に生育します。

国内や県内の分布

北海道から九州に分布し、県内では全県下にわたり分布します。

市内の状況と絶滅危惧要因

冠着山の登山道脇に1m×5mの範囲で1箇所のみ群生しています。踏み付けや採取による減少が懸念されます。

特記事項

和名は葉の脈の曲り方がツルが羽を広げた形に見えることが由来です。

準絶滅危惧

長野県：指定なし 環境省：指定なし

マルバサンキライ

【丸葉山奇糧】
Smilax vaginata var. *stans* (さやになった) (直立した)

シオデ科 シオデ属



種の特徴

夏緑性の小低木で、高さ30～50cm、茎は硬く緑色で枝分かれします。刺はありません。5～6月頃淡黄緑色の花が咲き、果実は球形で黒く熟します。サルマメなども含めこのようなものを半低木の植物とよびます。

生育環境

低山帯の林床や草原に生育します。

国内や県内の分布

本州、四国、九州に分布、県内は全県ですが、個体数は少ないです。日本固有種です。

市内の状況と絶滅危惧要因

大林山、冠着山に生育しています。アカマツ林の林床や、雑木林の林床に2～3個体生育します。自然遷移による個体数の減少が懸念されます。

特記事項

和名は丸い葉のサルトリイバラの意味です。サンキライとはサルトリイバラの俗称です。

コカンスゲ

【小寒菅】
Carex reinii (学者ラインの)

カヤツリグサ科 スゲ属



種の特徴

常緑性の草本植物で、高さは30~40cmです。匍枝を出して増えるので、群生します。葉は暗緑色でかたいです。4~5月に咲く1~3個の側小穂も雄雌性であることが特徴です。

生育環境

山地の林内の斜面、溪谷に生育しています。

国内や県内の分布

本州、四国、九州に分布し、県内は中部、東部、南部（低山帯の林内）に分布しますが、個体数は少ないです。日本固有種です。

市内の状況と絶滅危惧要因

あけぼの峠、佐野薬師、佐野川、女陰の滝に生育、暗い林床の急な斜面に群落を形成しています。自然遷移が個体数減少の要因となります。

特記事項

和名は小型の寒さに強いスゲの意味ですが、小穂の全てが雄雌性であるのは本種のみです。

ノビネチドリ

【延根千鳥】
Gymnadenia conopsea (カムチャッカの)

ラン科 テガタチドリ属



種の特徴

茎の高さは20~50cmほどになる多年草で、縦に折り目があり、縁は波状に縮れる長楕円形の葉を4~10枚つけます。5~6月に淡い紅紫色の花を穂状に咲かせます。

生育環境

低山帯~亜高山帯の湿った樹林下や林縁に生育します。

国内や県内の分布

北海道、本州中北部、四国、九州に分布し、県内では全県下にわたり分布します。

市内の状況と絶滅危惧要因

冠着山に生育しますがわずか2~3個体のみ確認しています。園芸採取が絶滅危惧の要因と考えられます。

特記事項

和名は根がよく伸び走るチドリソウの意味で、テガタチドリでは根が手の形になるためです。

チドリソウは、花の形が千鳥が飛んでいる姿に似ていることから名づけられました。

オオヤマサギソウ

【大山鷺草】

Platanthera sachalinensis (サハリンの)

ラン科 ツレサギソウ属



種の特徴

草丈40～60cmの多年草で、葉はふつう下部に2～3枚のみで光沢があります。7～8月に茎の上部に緑白色の2cmほどの花を穂状に咲かせます。

生育環境

低山帯上部から亜高山帯の樹林下や林縁に生育します。

国内や県内の分布

北海道から九州に分布し、県内では全県下にわたり分布します。

市内の状況と絶滅危惧要因

権平に2～3個体生育しています。
園芸採取による減少が懸念されます。

特記事項

和名は植物体が大きく、山に生息しサギ（鷺）に似た形の花が咲く草という意味です。ヤマサギソウは現在までに県内では確認されていません。

ネジバナ

【捩花】

Spiranthes sinensis var. *amoena* (中国の) (愛すべき)

ラン科 ネジバナ属



種の特徴

多年草で、葉は根元から細長く、上向きに開き、7～8月に葉の間から10～30cmくらいの花茎を1本出し、上部でねじれた穂状の花序をつけます。花は淡紅色で、草丈は15～30cm。

生育環境

日当たりの良い草地、原野の芝地、田の畦に生育します。

国内や県内の分布

北海道から九州、県内は全県に分布します。

市内の状況と絶滅危惧要因

権平、大池の日当たりの良い、草丈の低い草の生える草地に5～10個体生育しています。
採取圧、草地の減少（手入れ不足）、土地の乾燥化が絶滅危惧の要因とされています。

特記事項

和名は花序が捩れて咲くからで、その姿から別名をモジズリともいいます。

ヒトツボクロ

【一黒子】
Tipularia japonica (日本の)

ラン科 ヒトツボクロ属



上：全体
左：花

種の特徴

多年生^{たねんせい}の草本^{そうぼん}、花茎^{かけい}は高さ10～15cm、葉は1個で長さ4～5cmになります。中脈^{ちゅうみやく}は白く裏面^{うらめん}は紅紫色^{こうしよく}です。5～6月頃に咲く花は黄緑色^{おうりよく}で、一本の花茎に5～10個つけます。

生育環境

低山帯の明るい樹林の中に生育します。

国内や県内の分布

本州、四国、九州に分布、県内は全県に分布しますが数は少ないです。

市内の状況と絶滅危惧要因

高尾山、大林山の落葉^{おちば}が多く草の少ないコナラ林^{りんしょう}の林床^{りんしょう}に10～15個体程度生育しています。自然遷移^{しぜんせんい}による減少^{けねん}が懸念^{けんねん}されます。

特記事項

和名は黒^{くろ}っぽい葉^はが地面^{じめん}に接^{くわ}して一枚^{まい}だけ^{だけ}でる様子^{ようす}がその名^なのようにひとつのほくろ^{ほくろ}のように見えることから名づけられています。